

第6回 第5次焼津市総合計画策定市民会議 概要

日時 平成21年10月3日(土)9:00~12:00

場所 焼津市役所 本館603号室

9/19に6班に分かれて行った「施策の組立」を、市民会議各班の代表者が発表を行い、その後質疑応答を行いました。

続いて、庁内作業部会の代表者が庁内検討結果と市民会議検討結果の比較について説明を行い、その後質疑応答を行いました。

<福祉保健医療班(1班)>

(代表者発表後、質疑応答)

・「行政」は対象ではないのか。

「施設」と「事業所」に含まれる。ただ、「市役所」という発想では考えなかった。

・「小学校」「中学校」は対象ではないのか。

「教育機関」に含まれる。

(庁内検討結果との比較)

・ほとんど一致していると思う。

・「意図」が庁内会議より細分化されており、わかりやすい。

・「子育て支援の充実」の「対象」に、庁内会議では子どもを入れた。これは保育所等では親が安心して預けられるという目的と、子どもが健やかな成長(遊び)をするという目的があるので、子どもも「対象」とした。

・「市民協働」という視点が庁内会議ではあまりなかった。

<安全都市基盤班(2班)>

(代表者発表後、質疑応答)

・シート2の意図「消防・救急体制の充実」は、市立病院に3次救急のICUを設置するというような意味合いを持っているのか。

そこまで考慮したものではない。

・庁内会議にある「安全な水の安定供給」が抜けているが、それでいいのか。

事務事業レベルで論議されるべきかと思うが、この段階ではそこまで考慮しなかった。

(庁内検討結果との比較)

・ほとんど一致していると思う。

・「緑の多いまちづくり」は、庁内会議では「良好な住環境の実現」の中に包含される。

・「隣近所が仲良くなるまちづくり」は、庁内会議では「災害に強いまちづくり」の手段とした。

・庁内会議では、水がないと市民も安心して生活できないし、企業立地もできないということで、「安全な水の安定供給」も施策とした。

・庁内会議では、食の安全、振込詐欺がないまちにしようということで、「消費者の自立と保護」も施策とした。

(質疑応答)

・「安全な水の安定供給」について、焼津市の水は地下水が大部分なのか。

長島ダムが1割強で、他は地下水である。

- ・今後、人口が増えていっても、安定した供給ができるのか。
地下水と広域水路の2カ所の供給源を利用するという考えである。

<教育文化班(3班)>

(代表者発表後、質疑応答)

・庁内会議の「豊かな感性を育む幼児教育の充実」と、市民会議の「基本的な生活習慣を身につける幼児教育の充実」は、言い回しが違っているが、庁内会議のほうがいいのでは。市民会議の方は堅い言い方のように思う。

・意図も「健康な乳幼児とする」と「健康な乳幼児になる」では全然違う。動詞の使い方が市民会議の方はしっかりこない感じがする。

・意図の「知徳体のバランスのとれた子どもとなる」は、言葉だけをみると他の意図と比べ非常に大きく、大きな意図である「豊かな知性・感性が育まれる」とほぼ同じレベルと思える。ただ、説明を聞くと、これは「社会性のある子どもをつくる」ということだと思いが、言い方を変えたらどうか。

言葉から受ける印象としては、確かにそうかもしれない。ただ、社会性だけを強調したわけではない。

・意図の「自己肯定感を高め心身共に健康な乳幼児となる」は、対象が乳幼児だけとは限らないのではないか。ニートや引きこもりも対象になるのではないか。

確かに対象を広めてもいいのかなという気はするが、「生きる力を伸ばす社会教育・家庭教育の充実」に含めてもいいかと思う。

(庁内検討結果との比較)

- ・ほとんど一致していると思う。
- ・庁内会議よりも細かい文言を取り入れていると思う。
- ・市民会議の結果を踏まえ、庁内で再検討したが、「基本的な生活習慣を身につける」は、基本的な生活習慣だけに限定せず、もう少し広い表現にしたいと思う。「家庭教育の充実」は、家庭教育の重要さがあるので特出しして施策に挙げたが、「家庭教育」は「社会教育」に含まれるのではということになった。「伝統文化の継承と、新たな文化の創造」は、伝統文化と新たな文化だけではなく、どちらにも属さない文化振興の位置づけをしたいと思っている。

<産業経済班(4班)>

(代表者発表後、質疑応答)

・「焼津市に観光するものがない」と発表されたが、そんなことはない。焼津市に住んでいる方が自分のまちの良さに気付かないだけであり、観光するものがないとってしまうことが一番の問題だと思う。自分のまちをもっと愛することが必要だと思う。対象の「市民」の中に「観光客」が抜けているというのは、そういう視点がないからだと思う。

さかなセンターに来る方は観光にくるのではなく、ちょうど焼津が名古屋・東京の真ん中にあるので、「ご飯を食べる場所」程度で寄るのだと思う。産業としての観光をもう少し掘り起こしていくということで理解していただきたい。

- ・神奈川、東京でアンケートをとったとき、一番住みたいところは焼津であった。新聞を

とりよせて焼津で広報したら、焼津市民は皆びっくりしていた。自分のまちの良さをわかっていないということだと思う。もっと自信をもって宣伝しないとならないと思う。

私ももっとPRしていきたいと思う。

- ・焼津のもっている地理的特性をもっと観光に活かしていくべきだと思う。
- ・「観光」という考え方を、従来の考え方でなくて、例えば生活を見てもらうとか、人が見に来てくれることは全て「観光」という考え方を持つのもいいのではないか。

(庁内検討結果との比較)

- ・「観光客」は、庁内会議では「消費者」としてとらえた。
- ・施策の対象が、言葉が堅い感じがする。
- ・「大企業」「中小企業」「個人事業者」の順番を、工夫してもいいのかなと思う。
- ・「水産業」が出てこないのは逆に画期的に思えた。
- ・市民会議での新しい視点を元に、庁内で再検討していきたいと思う。

<生活環境班(5班)>

(代表者発表後、質疑応答)

- ・施策「動植物の保護」の管轄は、市ではなく県ではないか。
(市職員)法律の中のルートでは、市の役割もある。県を通じて市にくる仕事もある。

(庁内検討結果との比較)

- ・ほとんど一致していると思う。
- ・庁内会議では、対象を「市街化区域」「市街化調整区域」としたが、これは行政サイドの発想である。市民会議では「市外」を対象に入れていただいた。これは再検討しないとならないと思う。
- ・両方を合わせて今後再検討していきたい。

<協働行政班(6班)>

(代表者発表後、質疑応答)

- ・意図で「参画する」とあるが、協働につなげるための第1歩として「参画する」としているのか、協働と参画をある程度イコールとしたのか、どちらか。

「参画」は、「協働する」ということと、どのようにしていけば加わっていけるのかという意味合いととらえている。

(他メンバー)意識改革を企業と市民に求めているので、そこがスタートと思ったので「参画する」を特出しした。

(他メンバー)「参画」という意味は、初めの計画時点から皆で自発的に考えていくということだと思う。

(庁内検討結果との比較)

- ・ほとんど一致していると思う。
- ・市民会議の結果を踏まえ、庁内で再検討したが、対象の「議会」を「行政」から外したほうがいいのではという意見があった。情報の発信という意味では議会も入ってくると思うが、それ以外の施策は議会が入ってくるのかどうかという議論があった。
- ・また、施策「共に歩むまちづくり」が、意図の「協働してまちづくりをする」とかぶるのではという意見もでたが、適当な施策名が見つからないので再度検討することとした。

・「市民参画の推進」の対象が市民、議会、行政という形だと、役割分担をして協働をしていくというような施策名になるのかなという意見もでた。

(質疑応答)

・全体に関わることもかもしれないが、この施策の中で、我々がどれに力を入れていきたいのかという議論はこの後の話ということか。

その通りである。



第6回市民会議
発表の様子